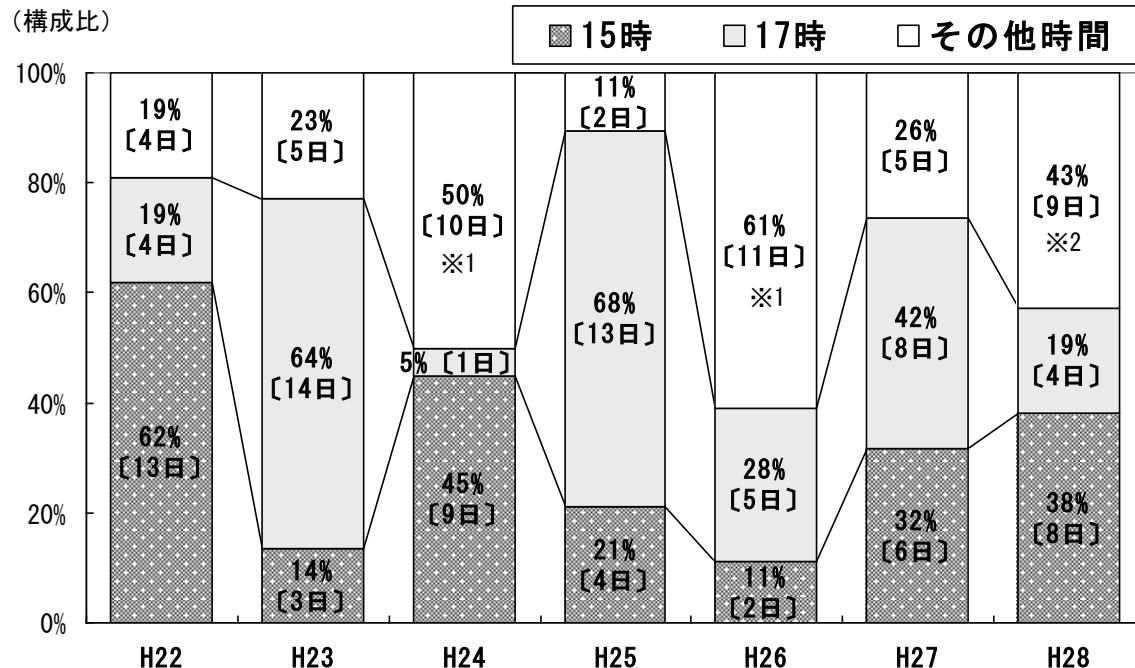


- 夏季平日のピーク時間帯については、震災以前は15時であったが、昼間帯の節電が進んできたH23年度以降は17時の発生が多くなっている。また、近年の太陽光発電増加に伴う供給力面への影響も踏まえ、H28供計ではエリア指定断面を17時としている。
- 今夏は平年と比べ、高気温となったが、日最高気温発生時の昼過ぎ(13時～14時頃)から最大電力発生想定時刻(17時)にかけて、気温の下がるペースが早かったことなどから、最大電力(H3)発生日を含め、エリアのピークは15時に多く発生した。
(今夏特有の気圧配置(乾燥したチベット高気圧の張り出し)の影響によるものと推定)

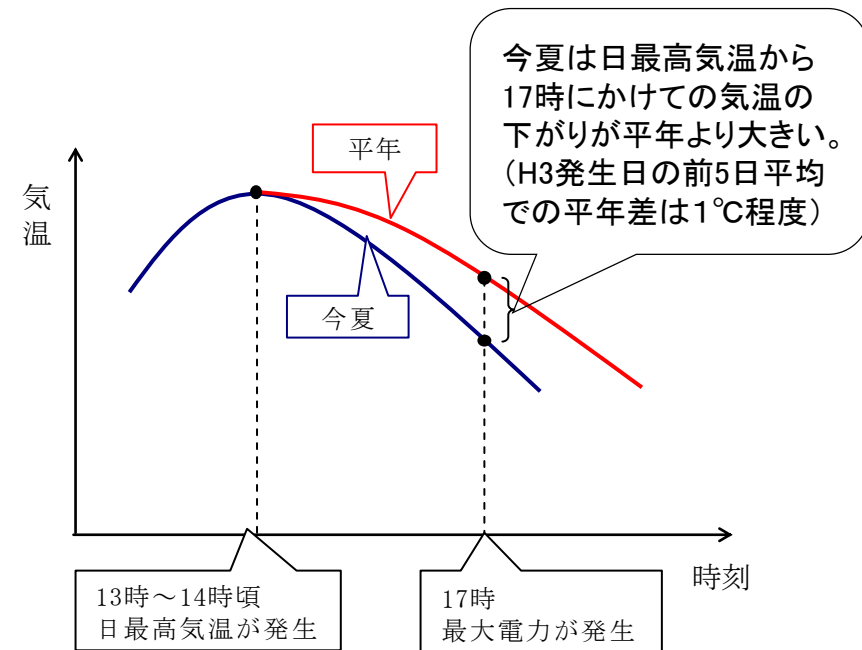
【ピーク発生時間帯の推移(8月平日:九州エリア)】



※1 H24・H26年度は午後から天候が崩れる日が多かったため、ピークが午前中に発生

※2 H28年度の「その他時間」の内訳 … 12時:2日、14時:6日、16時:1日

【日最高気温と17時気温との差(イメージ)】

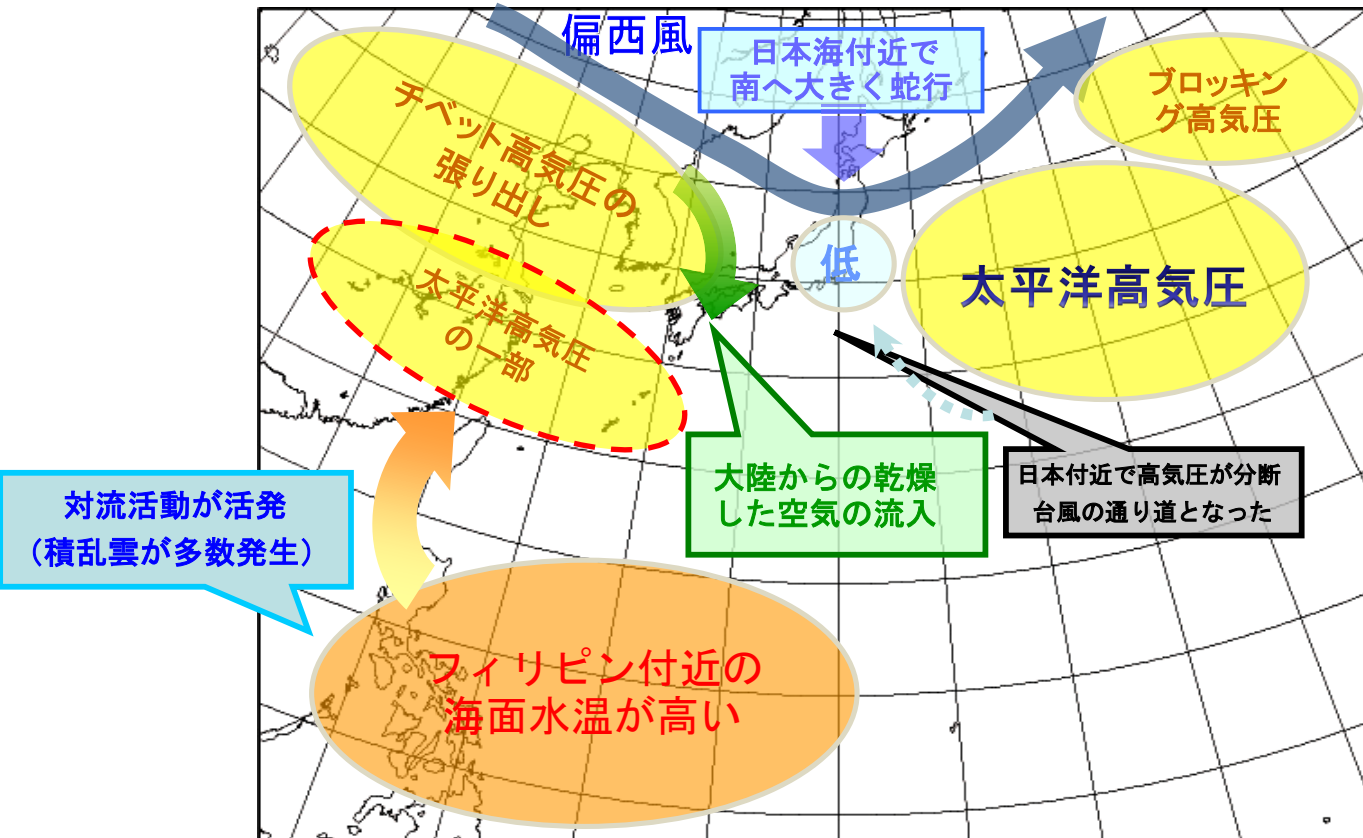


(参考) 今夏の天候の特徴

[今夏の天候の特徴] 全国的に暑夏、多照。特に8月は高温。

- 九州地方は、チベット高気圧と太平洋高気圧の一部に覆われて、安定した晴天となる日が続き、強い日射の影響で、高温となった。
- 一方でチベット高気圧の張り出しによって、大陸からの北よりの乾燥した空気が流入。この影響もあり、今夏は例年に比べ、夕方にかけて気温の下がるペースが早くなった。このため、日中の高温の割には体感として過ごしやすい日が多くなった。

【H28年8月の大気の流れの特徴】



【最高気温実績(九州7県平均)】

[単位: °C]

	8月			
	上旬	中旬	下旬	月平均
最高気温	34.5	35.0	32.3	33.9
平 年 差	+ 2.5	+ 3.3	+ 1.3	+ 2.4

【平均湿度(17時)(九州7県平均)】

[単位: %]

	8月		
	上旬	中旬	下旬
平均湿度(17時)	64.2	61.2	60.6
至近5ヵ年平均差	▲ 3.3	▲ 8.0	▲ 10.5